

職場のパワーハラスメント（以下パワハラ）は、どのくらいあるのでしょうか。都道府県労働局及び労働基準監督署に設置されている全国380カ所の総合労働相談コーナーに寄せられる民事上の個別

ナビゲーター

労働紛争の相談件数は、2018年度で32万3481件です。

相談内容を見てみると、「いじめ・嫌がらせ」が最も多く、2018年度では過去最高の8万2797件で前年対比14・9%増、相談全体の

◆ 8 ◆

働く人と組織

働きやすさの獲得と働きがい、の創出

25・6%と4分の1を占めています。2005年度が1万7859件、2010年度が3万9405件で相談全体の13・9%でしたから、8年間で相談件数、相談比率とも倍増しています。

精神障害を発症し労災補償の請求がなされた件数は2018年度で1820件、決定件数は1461件で、うち支給決定は465件でした。精神障害の出来事別でみると、パワハラに関連する理由として考えられるものとして、「(ひどい)嫌がらせ、いじめ、または暴行を受けた」が69件、「仕事内容・仕事量の(大きな)変化を生じさせる

パワハラが8年で倍増

出来事があった」が69件、「上司とのトラブルがあった」が18件、「同僚とのトラブル」2件、「部下とのトラブル」3件などでした。

「たった一言が人の心を傷

つける。たった一言が人の心を温める」という言葉があります。皆さんはこれまでに言葉の暴力などで辛い思いをされたことはありませんか。パワハラを見たり、相談を受けたことがある人は30・1%、パワハラをしたと感じたり、したと指摘されたことがある

人は11・7%という結果でした。この数字から、パワハラをしていないつもりでも、相手がパワハラと感じているケースが多いということがわかります。

また、実際にパワハラに関する相談を1件以上受けたことがある企業は、49・8%、実際にパワハラに該当する事案のあった企業は36・3%という結果でした。これは約半数の企業でパワハラの問題が実際に起こっているということを示しています。

「たった一言が人の心を傷

つける。たった一言が人の心を温める」という言葉があります。皆さんはこれまでに言葉の暴力などで辛い思いをされたことはありませんか。パワハラを見たり、相談を受けたことがある人は30・1%、パワハラをしたと感じたり、したと指摘されたことがある

人は11・7%という結果でした。この数字から、パワハラをしていないつもりでも、相手がパワハラと感じているケースが多いということがわかります。

また、実際にパワハラに関する相談を1件以上受けたことがある企業は、49・8%、実際にパワハラに該当する事案のあった企業は36・3%という結果でした。これは約半数の企業でパワハラの問題が実際に起こっているということを示しています。

「たった一言が人の心を傷

つける。たった一言が人の心を温める」という言葉があります。皆さんはこれまでに言葉の暴力などで辛い思いをされたことはありませんか。パワハラを見たり、相談を受けたことがある人は30・1%、パワハラをしたと感じたり、したと指摘されたことがある

人は11・7%という結果でした。この数字から、パワハラをしていないつもりでも、相手がパワハラと感じているケースが多いということがわかります。

また、実際にパワハラに関する相談を1件以上受けたことがある企業は、49・8%、実際にパワハラに該当する事案のあった企業は36・3%という結果でした。これは約半数の企業でパワハラの問題が実際に起こっているということを示しています。

い職場」、「雇用形態が多様な職場」です。

パワハラ問題の解決が難しいのは、加害者は業務上の指導の範囲内と認識し、被害者はパワハラと認識する双方の言い分に相違がみられることです。互いの常識、当たり前境界線が違うわけです。次回は予防策についてお伝えします。(参考・厚生労働省「2018年職場のパワーハラスメントに関する実態調査」)

【キャリアコンサルタント1級キャリアコンサルタント技能士 シニア産業カウンセラー 志水友子】

(火曜日掲載)

「残業が多い、休みが取り難

